

ハクセル美穂子の
ポリティカル・テーマ

Growing
Together!
みんなで創る「いわて」

いわて
県政レポート
2020
冬号

岩手県議会議員

ハクセル 美穂子

MIHOKO
HUXEL

100年先も
「いわて」が「いわて」であるように、
みんなで創る「いわて」



ハクセル美穂子プロフィール

昭和50年3月6日 雫石町生まれ
◎家族/アメリカ人の夫、4人の息子(中1、小5、小4、小1)
◎職業/英会話教室経営
◎趣味/読書、フラワーアレンジメント、散歩、博物館めぐり
◎学歴/雫石町立御明神小学校[S62卒]・雫石町立雫石中学校[H2卒]・盛岡第四高等学校[H5卒]・岩手大学農学部[H9卒]
◎経歴/平成9年 雫石町役場入庁
平成17年 夫とともにアメリカへ移る
平成18年 (株)Shady Grove Intl設立 代表取締役就任
平成27年 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区初当選
令和元年9月 岩手県議会議員選挙滝沢選挙区2期目の当選

f ハクセル美穂子オフィシャルFacebook
<https://www.facebook.com/mihokopage/>

ハクセル美穂子 2期目のごあいさつ

県議会議員2期目を迎えて

さる令和元年9月、岩手県議会議員選挙において無投票当選で再び県議会へ送っていただきました。皆さま方のご支援に心から感謝を申し上げます。

右も左もわからずのスタートから4年、県議会で様々な経験を重ねてきました。

2期目の今期は、岩手の素晴らしさを100年先まで受け継いでいくための種まきをする人間としての責任を胸に、県議会議員活動を進めてまいります。

初当選からずっと掲げてきたハクセル美穂子の政治テーマ、

**100年先も
「いわて」が「いわて」であるように
みんなで創る「いわて」**

をより具体的に進める4年間になると考えています。

1期目に実現できた3つの子育て支援政策をさらに発展させることに加えて、100年先まで持続可能な地域づくりの基盤となる政策の推進に取り組みます。

私が考える持続可能な地域の基盤とは【人それぞれの多様性に沿った学びが進められる教育の基盤】、【必

要な物事を地域内で確保できる循環型の地域産業の基盤】、【自律し、必要な時には互いに助け合うことができる暮らしやすい地域の基盤】です。

笑顔あふれ、自律した、生きる喜びを全身で感じ、のびのびと暮らしていける岩手県を皆さまと共に創るために、具体的な政策を今期もどんどん提言していきます。

今後とも、元祖母ちゃん県議「ハクセル美穂子」をよろしくをお願いします！



街灯でのご挨拶。たくさんの声援をいただきました。ありがとうございます



所属会派「いわて県民クラブ」の仲間と知事要望



商工建設委員長に就任しました。頑張ります。

岩手県議会12月定例会で 2期目最初の一般質問に 登壇しました!!

2期目初めての一般質問では、「100年先もいわてがいわてであるように」を目標に、持続可能な岩手県を次世代へ受け継ぐために今取り組むべき政策を中心に質問をしました。

私が一番力を入れたのは、子どもの医療費助成制度の拡充です。県が助成する医療費は、幼児は通院と入院すべてが対象ですが、小学生は入院した場合までで通院は該当しません。しかも、所得制限が設けられているため、県内の全ての子育て家庭がこうした医療費助成の恩恵を受けられるわけではありません。そのため、県の制度では助成されない、小学生が通院した際や中学生が入院や通院をした際の医療費の補助のために、年間数千万円もの独自予算をあてている市町村もあります。子どもへの投資は未来への投資だからです。

一方、達増知事が選挙公約に掲げ、実現した中学校卒業までの医療費現物給付化(窓口負担ゼロ円)のために県が負担した額は約300万円程だったということが、今回の答弁で明らかになりました。しかも、県が助成する医療費は幼児の通院と入院、小学生の入院までですから、「中学卒業まで」といっても、実質的には市町村の負担の上に成り立っているものなのです。

そこで、今回の一般質問では、県の統一的な子どもの医療費助成制度の創設を求め、県が医療費の助成範囲を拡大することで市町村の負担を軽減し、他の人口減少対策に対する政策の拡充が図られるようにするべきと主張しました。

残念ながら、前向きな答弁をいただくことはできませんでしたが、子育て立県をうたう鳥取県など他県の取組みを参考に、さらに子育て環境の改善を促す政策を引き続き提言していきます。

以下、今回質問した内容をいくつかご紹介します。
岩手県議会のHP内でも私の質問の様子を見ることが



できますので、ぜひご覧ください。

①高校卒業までの医療費助成の拡大について

県知事選挙で達増知事が選挙公約に掲げた「中学校卒業までの医療費の現物給付」が、このように速やかに実現できるのであれば、高校卒業までの医療費助成拡大も知事の一

声で実現できるのではないかと考えています。医療費助成を高校卒業まで拡大する意思があるか?

知事の回答:県としては、子どもの医療費助成は、本来、全国どここの地域においても同等な水準で行われるべきであると考えており、国に対し、全国一律の制度を創設するよう要望してきました。

県が助成対象を拡大する場合には、多額の財源の確保が必要であり、本県では、県立病院等事業会計負担金が多額になっているという事情もあることから、今後、国の動向を注視しながら、県の医療・福祉政策全体の中で、総合的に検討する必要があると考えています。

②水田の大区画化の推進について

スマート農業の推進も必要だが、それと同時に、農地集積を図り、農地の大区画化を図ることが大切だ。岩手県の水田整備対象面積は、94,300ha、そのうち30a程度以上の区画整備が済んでいる面積が49,009ha、整備率は52.0%、全国平均が65.3%で東北平均が66.7%。これから100年後も農林水産業を岩手の基幹産業としていくために、この大区画化を進めていくことが大切である。今後、岩手県は、水田の大区画化の推進にどのように取り組んでいくのか?

農林水産部長の回答:「スマート農業」技術の効果を最大限に高めるためには、水田の大区画化などの基盤整備が重要である。水田の大区画化に



あたっては、担い手に農地を集積する必要があり、地域における基盤整備の実施に向けた話し合いの中で、担い手の明確化や農地集積などの営農ビジョンづくりを支援しながら、地域の合意形成を促進し、採択に向けた事業計画の策定に取り組んでいる。

今後も、国に対して、水田整備が遅れている本県の実情を訴えながら、十分な予算措置を強く求めるとともに、スマート農業の導入などによる生産性の高い農業の実現に向けて、水田の大区画化などの基盤整備を計画的に推進していく。

③ICT等を活用した多様な学習機会の確保について

学校以外の場所での多様な学習のあり方を必要とする児童生徒に対して、メールやFAXなど、様々なICT等を活用して、必要な学習を進めていけるような仕組みの構築を進めるべきだと考えるが、県の考えは。

教育長の回答:現在国が示しているICT等を活用した学習支援では、コンピュータやインターネット等の他、郵送やFAXなどを活用しながら、担任等が訪問等により対面指導を行い、本人の努力を適切に評価することとされている。県教育委員会では、中学校国語、数学、英語における家庭学習に役立つ補助問題として「Gアップシート」等の教材を作成、総合教育センターのホームページ内にアップし、すべての生徒が活用できる学習支援体制を整備している。

その他、先進地の取組状況等の把握に努めながら、不登校児童生徒に対する適切な支援を行うことで、本人の意欲や自己肯定感を高め、学校への復帰や社会的自立の支援に向けて、一人一人に寄り添った学習支援体制の充実に努めていく。

ICTとは、「Information and Communication Technology(情報通信技術)」の略で、通信技術を活用したコミュニケーションのこと。スマート農業とは、ロボット技術や情報通信技術(ICT)を活用して、省力化・精密化や高品質生産を実現する等を推進している新たな農業のこと。



ハクセル美穂子一般質問、動画はこちら↑

2019冬号コラム COLUMN

元祖母ちゃん県議、これからの岩手を語る 美穂子さん、本音を聞いてもいいですか? Vol.2

質問①:ズバリ!2期目に実現したいこと!と、その理由は?

ハクセル:一番は、岩手の特徴を生かしながら、一人ひとりの多様性に沿った学びが進められる魅力あふれる教育の基盤づくりです。

この背景として、一つは、岩手でも小中学生の70人に一人が不登校という現実の中で、家庭でも安心して学習を進められる環境をどう作っていったらいいんだろうか、という問題意識がありました。

もう一つには、私自身が子どもの教育のことで悩んだ経験があります。我が家の四男は、3人のお兄ちゃんの背中を見てのびのび自由な気持ちに育ったためか、じっと座っているのが何より嫌だったようで、宿題をさせるのも一苦労。議員活動の合間に学校の先生と何度も面談したり、一時はとても悩みました。

そのようなこともあり、2期目は、一人ひとりの多様性を受け入れ、それぞれの個性を社会の中でどう活かしているのか、自己肯定感を高め自分の好きなことを得意なことを社会の中で活かしていくスキルを子どものころから学べる教育のあり方を重点的に議論したいと考えています。



家族との時間も大切に、だから仕事も頑張れます。

Q.具体的なイメージはありますか?

はい、例えば、島根県海士町などの事例では、小規模高校で地域の産業や自然や人的な資源を生かしながら特色ある魅力的な教育を実践することで、地元の子どもたちだけでなく、都会からもそこで学ばせたいという親子が移住するなど、人口減少の軽減につながることもわかってきています。そんな風に、県外の方々にもぜひ岩手で学びたいと思っていただけるような、岩手の特徴を生かした教育のあり方に取り組んでいきます。

それから、広大な県土を有効に活用するスマート農業をさらに進めるための基盤整備に取り組むことや、岩手の地ならではの豊かな暮らしを誇りとし、先端技術を活用しつつもこれまで脈々と受け継がれてきた文化と伝統を大切に持続可能な地域づくりにも取り組みたいです。

質問②:ズバリ!議員の仕事と家庭の両立は?

ハクセル:まさに試行錯誤の連続です!今では、お父さんとお母さんの役割がほぼ逆転し、家事の8割を主人が担っています。でも、子どもたちを学校に送り出す時が一番大変なので、朝は二人で協力しています。

主人は、ごはんは炊けるのですがおにぎりは上手に作れません。そこで、子どもたちがスポ少前におやつ用に「おいなりさん」を作るようになりました。お揚げの袋にご飯を入れると出来上がり!という簡単さが良いみたいです。

ただ、小さいうちはやはり母親をある程度必要とします。実は、いろいろと不満を抱えていた次男から「ボクの話聞く時間もってもらえないから、次は辞めたら?」と言われたことがあります。子どもたちも一生懸命我慢してくれたんだなあと、次男の言葉が胸に刺さりました。それからは、仕事と家庭のちょうどいいバランスを意識しながら、どちらかに偏りすぎないように協力して両立を図るように努めています。

こんな私だからこそ、「元祖母ちゃん県議」として、子育て世代の葛藤や悩みに共感しつつ、少しでもそれを軽減できるような施策の提案と実現に向けた努力を続けていきたいと思っています。



家事8割のお父さんの頑張りが両立を支えています。